



5月



えんだより

ともしび保育園 5月1日発行

「生き抜く力」

新年度が始まって1ヵ月が過ぎました。新入で入ってきた子どもたちは、4月当初は泣いていたものの、2週間経つ頃にはほとんどの子が慣れていました。

入園後初めてお子さんを預けた時は、後ろ髪を引かれる思いだったのではないかと思います。今では朝離れる時にバイバイもしないで遊び出す子もいて、親としては嬉しいのやら悲しいのやら複雑な気持ちが葛藤していると思います。

泣いて食べられなかった食事を食べたり、自分の好きな遊びを見つけ、園庭など外遊びも楽しんで遊び、保育園の生活リズムが出来てきました。在園児と見分けがつかないくらい馴染んでいる姿を見て、子どもたちの順応力や適応力のすごさを改めて感じています。

これは人間や動物、植物が本来持っている生存本能です。それはどんなに小さな微生物でも持っています。直近で例を挙げるとコロナウイルスがあります。世界中で猛威を振るったコロナウイルスも生き残るために変異していきました。人類の叡智を結集しワクチンを開発して免疫力をつけ、コロナウイルスと共存することができました。ちょっと哲学ぽくなってきてしまいましたが、要するに目に見えない小さな生き物も生き抜く力を持っているということです。

産まれたての赤ちゃんも本来生き抜く力、生存本能を持っています。赤ちゃんが産まれてすぐ産声を上げるのは、医学用語で「第一啼泣（だいいちていきゅう）」といい、自力で肺に酸素を取り込むために大きく泣いて肺を膨らませます。これはお母さんのお腹の中、羊水の中から外の世界で生きるための大切なプロセスです。これは誰が教えたでもなく生存本能で産声を上げています。赤ちゃんがお腹が空いて泣くのも、眠くて泣くのも生き抜くために泣いています。

しかしながら未熟な為、大人がミルクを与えたり手助けが必要な部分が多々あります。保育園は手助けが必要なところを援助していき、そして子どもが本来持っている生きる力、自ら成長する力を信じ見守り、保育者は子どもたちの応援団として保育しています。

